

精薄児のトイレット・トレーニングについての研究

Studies Related to Toilet Training of the Mentally Retarded

by

Robert K. Rentfrow, M. S. & Doris K. Rentfrow, B. A.

(the American Journal of Occupational Therapy, 23(5), Sep.-Oct., 1969)

この論文は、1963年のEllisの論文を基とし、精薄児のtoilet trainingに対する、operant techniquesの利用について、述べたものである。IQ 35以下の精薄児は、しばしば、無差別的に、排便・排尿をし、指で食事をし、着衣を嫌ったりというように、種々の未発達な行動パターンを示す。同時に、多くの施設では、スタッフ数が少ないのが、現状である。だからといって、彼らが、排出コントロールを学べないという憶測は、不適当である。

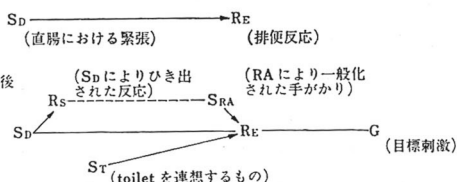
Operant Techniques

排出コントロールの重要な2点は、①非衛生的環境下での身体危険(赤痢・腸炎)②トイレ動作は、すべての行動の範囲において、正しく習慣づけることを可能にする。はじめに、患児が失禁しなくなった時、家庭や監視者に受け入れられ、次に彼は習慣化された、レクの訓練プログラムにはいれる。このテクニックが、この種の子どもたちに適切である理由は、言語能力を必要としないからである。患児にself-help skillsを教える最も効果的な「強調の原理」がWatsonにより、次のように発表された。1) reinforcement 2) successive approximation 3) chaining 4) schedules of reinforcement 5) stimulus control 6) extinction 7) time out 8) types of reinforcement ① positive reinforcement ② negative reinforcement

Theoretical Discussion of the Application of Learning Theory

Ellisによる精薄児のtoilet trainingの原理によれ

訓練前



ばtoilet trainingを妨げる因子は1)訓練不足2)暗記力低下3)CNS damageの3点である。

訓練プログラムのポイントは、①プログラムは、医学および行動学の専門家で管理。②患児は正常な視

覚および聴覚を持ち、CA 12-15の人で、重度身障者でないもの。③対象児は、特別な環境下に収容される。④最少限の食物を与えられ、おいしいものは報酬として、さし控えられる。⑤R_Eの時間および回数の正確な記録はプログラム開始、30日前から必要。⑥不定のR_Eを示す児は除外。⑦S_Dが始まると、すぐにトイレへ連行。⑧次回のR_Eは、強調されるべきである。⑨トイレ以外でのR_Eは強調されてはならない。⑩対象児をトイレに連行する監視者は、特別な衣服を着用する。⑪1度、予期した反応が進むと、患児は徐々に監視者の助けや強調から、ひきはなされるべきである。⑫トイレ習慣が確立されると、部分的な強調が作られるべきである。⑬1週7日のスケジュール。⑭正確な記録の継続が必要。⑮Ellisによると、30日間の観察期間をふくんだ、90日の治療期間が必要である。

Summary of Results of Studies

このプログラム遂行の結果、子どもたちの排出コントロールは、改善の方向に導かれている。しかし、患児たちが家庭などの、保護された環境に戻った時に、直ちに以前の習慣に逆もどりしてしまうという研究報告もある。この研究は、無秩序な病棟環境からの分離とか、改善されたトイレの設備が、よりよい訓練姿勢であることを立証している。身体の快適さを考慮した、機械的強調の成功例として、Hundziakによるものがある。これは便器の中に、排出物が通過するものを記録する、光電子写真装置である。

Summary

toilet trainingの重要性は、病棟に縛りつけて訓練することよりも、むしろレクリエーションと訓練プログラムをかみあわせることを、認めさせることである。もし、これが達成できなければ、他の目的動作の発達は二次的なものになってしまう。進歩のみられた訓練も、社会的に受け入れられる方向にもっていくことが、重要である。最後にもう一つ、失禁が減るといことで、医療的援助と洗濯の世話が減少され、ひいては公共費の節約がはかれる。しかし一番懸念される問題は、通常の病室にもどった時の退行現象である。ここに将来の研究に対する、大きな問題点が残されている。(足立学園作業療法士 戸島 万里子)